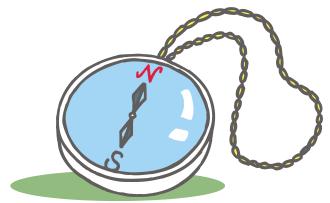


# 羅針盤



第37号

令和3年(2021年)2月22日(月)

## ◆『人間は考える葦（あし）である』

皆さんは、17世紀にフランスで活躍したブレーズ・パスカル（1623年～1662年）という科学者でもあり、哲学者でもあった人をご存じでしょうか。その功績の中で有名なものの中には、円錐曲線に関する「パスカルの定理」や「パスカルの三角形」といった数学の世界での数々の発見があります。また、気圧の単位である「hPa（ヘクトパスカル）」や圧力に関する「パスカルの原理」でも、発見した彼の名前が採用されています。その他にも、哲学、思想、神学など、彼の持つ才能は多岐に及んでいました。パスカルの隨想録「パンセ」（思想という意味です）の中に、「人間はひとくきの葦（あし）にすぎない。自然の中で最も弱いものである。だが、それは考える葦（あし）である。」という一節があります。この一節は、『人間は考える葦である』という有名な言葉として、後世に語り継がれています。「葦（アシ）」はヨシとも呼ばれ、川辺や湖の岸などの水辺に群生する、スキによく似た穂をつけるイネ科の多年草で、風が吹くと弱々しくゆらゆらと揺れ、その様子を見て、パスカルは「人は葦と同じように弱々しく頼りない存在である」と表現しました。この言葉の意味は、人間は確かに弱い面もたくさん持っているが、「考える」という働きがあるからこそ偉大であるという意味です。人間は感情によって揺れ動く存在ではあるけれど、自分の目で見て、自分の心で聴き、自分の頭で考え判断することが何よりも大切であるということです。日頃から、学校生活を振り返り、次は何をすべきかということを「よく考えて」行動することが、何よりも必要なことだと思います。



## ◆「2年後はもっと笑顔になるよって伝えたい」

競泳の池江璃花子選手が、白血病の診断を受けてからちょうど2年となった2月8日に、自身のインスタグラムで「2年前の今日。人生のどん底に突き落とされた日。あの日を一生忘れるることはできません。だけど、白血病の診断を受けた後の自分は、思いっきり泣いた後、マネージャーさんに、写真を撮って！と言えるほど笑顔でした。全てのことに解放され、ホッとしてたのかな、一年前とはまた違った気持ちで今日を迎えた気がする。2年前の自分に、2年後はもっと笑顔になれてるよって伝えてあげたい。1年前はまだ退院して間もなくて、免疫抑制剤も飲んでいたし。吐き気もあったかなあ？よくここまで頑張った！！！」というメッセージを公開しています。診断を受けて大泣きした後の彼女は、それでも笑顔を取り戻し、「人生のどん底に突き落とされた日。あの日を一生忘れるることはできない。」と綴りながらも、「2年前の自分に、2年後はもっと笑顔になれてるよって伝えてあげたい。」と記した彼女の思いは、2月7日に行われたジャパンオープンの50m自由形での2位入賞という形で、実戦復帰後初の表彰台まで到達した。「一人のアスリートとして、一人の人間として、前に進んでいこうと思う。」と語った彼女の決意が、実を結びつつあると感じることができます。